

池の水に澄んで映つてゐる。

一周りして辨天様も拜んだ。

小鳥が飛んでゐた。

美しい雪景色だ。

氣が沈まる。

新吉は貸家札を見つけた。

歸りに違つた道を通つて罐詰と酒を買ふ。

善之助が石屋の前で變な歌を唄ふと犬が吠える。

新吉は犬が恐い。

ビールを四五本てんでに持つて、可笑しな足袋も穿かない恰好の善之助は危妙な聲を出す。

彼には性慾的の鬱情が、其の手や足にグジュグジュしてゐる様な匂ひがある。

三十越した獨身者も不具の部類だ。

其處で布施の家で盛んに酒を飲んで、新吉も可成酔つた。